AI時代を生き抜く子どもたちへ どうしても身につけさせたい10の力



世界を見続けている渡邉理事長
だからこそできるAI時代への提言



これまでの前提・前例が
通用しない時代を生きていくあなたへ――

今、私たちが迎えようとしているAI時代は、学び方、働き方、そして生き方のすべてを大きく変える可能性を秘めている、まさに**産業革命**に匹敵する大激変の時代です。
だからこそ、あなたには**AIができること**を競うのではなく、
「あなたという人間にしかできない力」を大切に育ててほしいのです。
あなたがこれから歩む25歳までの道のりの中で、様々な出会いや挑戦を通じ、
あなたらしい自分だけの**「AI時代を生き抜く力」**を身につけ、あなたが生まれてきたからこそ
起こせる素敵な**未来の奇跡**を実現するステージが、ここ郁文館にあります。

一、人間力

どんな状況下でも決めたことを最後までやり遂げる強さや他者を思いやる優しさ、すべてに感謝する心、誠実さなど人間だからこそ持つことができる力。AIがどれだけ進化しても、これらの力をAIが代わりに持つことはできない。そのためAI時代を幸せに生き抜く上で最も重要である。

一、プレゼンテーション能力

ただ情報を伝えるだけではなく、“自分の思い・覚悟・熱量”などを伝える力。AIは持ち得ず、機械や画面などを通してではどうしても伝わりきらない。相手の心を動かし、行動につなげる力、すなわち“気”がとても大切だ。

一、リーダーシップ

人をまとめ、方向性を示し、皆が向かうベクトルを一つにする力。人の心を動かし、仲間を鼓舞してチームや組織をまとめ、前に進めることができるのは人間しかいない。

一、仮説立案力

仮説を立てられるということは“よい質問ができること”。“よい質問”とは、自分なりの考え（仮説）を持った上で、その正しさや本質を確かめるために行うもの。AIは“過去”の情報をもとにした回答には非常に強い。しかし、自分なりの考え（仮説）がないため、これまでにないものをつくるような“未来思考”の質問には弱い。だからこそ、人間には、過去の知識に加えて自らの経験と自分なりの視点をもとに仮説を立てる力が求められる。

一、論理力

物事を、筋道を立て矛盾なく説明する力。AIは、前提が間違っていたり、途中のつながりに飛躍があったりすることも、一見すると論理的に見えるように回答するときもある。それらに惑わされないためにも、自分自身で筋道を確認し、矛盾や飛躍を見抜く「論理力」が必要である。

一、本質を見抜く力

思考の三原則 “長期的・多面的・根本的”が元となっている力。よくAIに『その本質は何ですか?』と聞く人がいるが、そんな質問では本質には辿り着けない。本質を見抜くためには、専門的な知識や経験を土台とした様々な角度から物事を長期的に見て、多面的に捉え、最後には根本にあるものを掘り下げていかなければならない。学ぶことの大切な理由の一つが、この「本質を見抜く力」を身につけるためである。

一、想像力→創造力→行動力

この3つの力は繋がっている。まず、必要なのは未来を想像しゼロから一歩目を思い描く「想像力」。次にその未来を実現するために具体的な形にしていく「創造力」。そして最後に、それを実際にやり続けて、やり遂げる力が「行動力」だ。AIは、人間をサポートすることはできるかもしれないが、“未来を思い描き、ゼロから一歩を踏み出し、創造し、行動し続けること”は、最終的には人間にしかできない。だからこそ、この力を持っている人間は強い。

一、読解力

文章を正確に読み取り、書かれている内容やその奥にある意図を理解する力。AIの回答を読み解く力がなければ、到底AIを使いこなすことはできず、AIが出す答えの意味を読み解くためにも文章（文字・言葉・文脈）を正確に読む力が欠かせない。多くの文章に触れ、言葉を理解し、行間を読み取る力を磨くことが求められる。

郁文館にしかできない学びがある

これまでの前提・前例が
通用しない時代を生きていくあなたへ――

震災・財政破綻を経験した2都市を体感する 2年間の「未来型修学旅行」

郁文館の修学旅行は観光ではありません。
日本の各都市が直面するリアルな課題「震災からの復興」と「財政破綻からの再建」を自らの目と体で体感し、
「日本の未来」を自分ごととして考えるための、2年間をかけたフィールドワークです。
1年次は、東日本大震災の記憶をその大地に刻みながら、SDGs未来都市として歩みはじめた岩手県陸前高田市へ。
2年次は、全国唯一の財政再建団体として20年間の苦難の時期を乗り越え、いま新たな姿へ生まれ変わろうとしている北海道夕張市へ。
2つの都市が体験してきた逆境と再生のリアルには、社会問題を「誰かの話」から「自分の問い」へと変える力があります。
教科書には載っていない「ホンモノ」を体感することで、自分の未来を切り拓くステージが、ここ郁文館にあります。

震災を乗り越え 持続可能な未来を築く ホンモノ

陸前高田SDGs未来都市研修



「当事者の一人として、人と自然の調和の持続可能性を考える」を目的に、SDGs未来都市に認定された岩手県陸前高田市で実際に行われている産業を体感し、本当の意味での共生社会を考えるSDGs未来都市研修を実施しています。
2011年に起きた東日本大震災を経験後、陸前高田市は自然と人間が共生する未来都市を新たに形成してきました。日本の地方都市が持つポテンシャルを最大限に活かした未来への挑戦活動を現地の方々とタッグを組んで学びます。

2026年度に実施した研修の例

- 東日本大震災津波伝承館への訪問
- 森林組合によるカーボンクレジット（脱炭素）の講義
- ブルーカーボンにつながるわかめ養殖・藻場再生の見学
- 命をテーマにしたワタミオーガニックランドでの食育体験

など

財政破綻を乗り越え 自治体の未来を問う ホンモノ

夕張PBL型未来都市研修



かつて炭鉱の街として栄えた北海道夕張市。エネルギー革命による炭鉱の閉山などを経て、約20年前に財政破綻が表面化。全国唯一の「財政再建団体」となった自治体です。財政破綻の苦難を乗り越えてきた街の過去と、加速する人口減少・少子高齢化の問題をかかえる今を題材に、自治体が存続するための「地方自治のあり方」を探究します。地方自治の最前線にいる大人たちと対話し、自分たちのアイデアをぶつけるPBL型探究学習（課題解決型学習）を通し、これから本格的な人口減少社会を迎える「日本の未来」を考えるフィールドワークです。

2026年度に実施した研修の例

- 夕張市役所で財政再建への道のりの講義
- 夕張市がたどってきた歴史を知る夕張炭鉱博物館の見学
- アイヌ文化の復興拠点となるウポポイ（アイヌ文化施設）への訪問
- 財政再建のカギを握る特産品 夕張メロンの試食体験

など